

## 千葉県入学者選抜改善検討会議報告書について（概要）

### 1 採点誤りの原因

採点誤りは、単独の要因だけでなく、日程や解答用紙の構成が採点者の意識に影響したことなど、複数の要因が関係して、採点誤りに繋がったものと考えられる。

○採点や点検に対し、集中力の低下や慣れが生じるなど、採点者及び点検者の意識の面が要因の1つである。（調査では、誤りの主な要因について、約84.3%の学校長が、採点者の集中力の持続や慣れであると回答）

○多くの学校で、限られた時間の中での焦り、長時間にわたる採点業務による疲労や、採点のみに集中できない状況等によって、採点者の集中力や意識の低下が生じ、誤りに繋がった。

○問題構成や配点の複雑さ等によって誤りが生じやすくなった。また、解答用紙に小問の得点記入欄が設けられていないため、得点記入が雑になったり、得点集計の際、読み落としや読み誤りに繋がったりした。

○全ての学校において県教育委員会の指示に則った採点マニュアルを整備、運用していたが、ヒューマンエラーを防ぐことはできなかった。また、点検回数を増やすと、誤りの件数は減らせるものの、誤りをなくすことまでは期待できず、一方で、採点者の負担が増えることも考えられるため、点検回数に誤りの原因があるとは言い切れない。

### 2 改善策（提言）

#### ○マークシート及びデジタル採点システムの導入

- ・マークシートを導入することで、選択問題の採点誤りをなくすことができる。それにより、採点者は記述問題の採点に注力できる。
- ・記述問題については、デジタル採点システムの導入で、同一問題について複数の受検者の解答を1つの画面に同時に表示して採点を行うことができる。
- ・小計、合計についても、計算が自動で行われる。
- ・受検者の思考力及び表現力をみることや、中学校等での学習への影響を考慮し、記述式問題は残すべきである。記述式とマークシートの割合については、県教育委員会で検討されたい。

#### ○問題の配列・解答用紙の構成の改善

- ・配点や解答方法が同じ問題を可能な限り揃える。併せて、解答用紙についても、問題ごとの小計欄を設ける等、採点者目線での配慮を行う。  
マークシートやデジタル採点システムを導入すれば、この問題は解消する。

### ○2系統での採点と、ボーダーライン付近の点検の実施

- ・採点を2系統でそれぞれの担当が行った上で、採点結果を突き合わせて点検を行う。デジタル採点システムであれば、効率的、効果的に実施することができる。
- ・合否のボーダーライン付近の点検を実施し、合否の誤りを防ぐ。

### ○採点業務に集中できる日程の工夫

- ・採点業務の合間に授業を行わなければならないなど、採点に集中できない環境を改善するため、採点のみを行う採点日を2日程度設ける。

### ○県教育委員会からの指示（統一のマニュアル）

- ・改善策について、中学校や高等学校等への周知の徹底を図るとともに、採点や点検について、県共通のマニュアルを作成し、県教育委員会としての方向性を示す。

## 3 今後の県教育委員会の対応

- (1) 報告書を踏まえ、県教育委員会としての改善策を公表する。（7月中旬予定）併せて、具体的な準備、実施スケジュール等を公表する。
- (2) 8月に開催予定の公立高等学校入学者選抜実施要項説明会において、生徒や保護者等に、改善点について具体的に説明する。
- (3) 公立高等学校校長会議、副校長・教頭会議等で、改善策についての説明や研修を行う。